

| | | | |
|------------------------|--|---|----|
| 会 議 名 (審議会等名) | 平成20年度 第1回 川西市青少年問題協議会 | | |
| 事 務 局 (担 当 課) | こども部子育て室 青少年支援課 内線(3441) | | |
| 開 催 日 時 | 平成20年7月17日(木)午前10時～午前11時30分 | | |
| 開 催 場 所 | 市役所 4階 庁議室 | | |
| 出 席 者 | 委 員 | 大塩民生、益満良一、細見幸己、井上克己、今北道彦、齋田全代、 秋田修一、若松省吾、高木佳子、澁野敏彦、戸松嘉宏、宮路尊士、 稲垣 明、長船幸夫、佐伯直樹 | |
| | 事務局 | こども部 部長 後藤哲雄、子育て室 室長 藪野俊介 教育支援室 室長 松岡寛一 青少年センター 所長 平野圭祐 青少年支援課 課長 吉田薫、主査 小西裕之、平瀬史明 | |
| 傍聴の可否 | <input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 不可・一部不可 | 傍聴者数 | 0人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合 は、その理由 | | | |
| 会 議 次 第 | 1. 開会 2. 委員の委嘱 3. 会長あいさつ 4. 協議事項 (1) 副会長の選出について (2) 平成20年度川西市青少年健全育成要綱(案)について (3) 「青少年の表彰」について (4) 平成21年川西市青少年育成フォーラムについて 5. 意見交換 ○ 青少年の自立支援と地域・家庭の役割 6. その他 7. 閉会 | | |
| 会 議 結 果 | 4. 協議事項 (1) 副会長に益満委員を選出 (2) 重点項目等19年度から継続して推進する。 (3) 平成20年8月1日案内配付。平成20年10月1日締切。 実行委員 洪野委員(青少年団体連絡協議会) 佐伯委員(中学校校長会) 稲垣委員(高等学校校長会) (4) 平成21年川西市青少年育成フォーラムを青少協とPTA連合会 との共催実施とし、平成21年川西市PTCA青少年フォー ラムとする。 5. 意見交換 | | |

<青少年の自立支援と地域・家庭の役割>

- ・家庭で青少年の自立への意欲の基盤を培う。
- ・すべての青少年に体験活動を根付かせ、体験を通じた試行錯誤切磋琢磨を見守る。
- ・社会との関係の中で自己実現を図れるように地域の大人が導く
- ・一人ひとりに寄り添いその成長を支援する。
- ・情報メディアの急速な普及に伴う課題へ大人の責任として対応する。

新しく委員になられた方も多いため、各委員から団体の青少年健全育成事業の取組の報告や団体から見た子どもたち(取り巻く環境を含む)の気になる点の意見交換を実施。

審 議 経 過

1. 開会

2. 委員の委嘱 自己紹介

今回改選委員。 任期:前委員より継続 ~平成21年6月30日(2年間)

益満良一、細見幸己、戸松嘉宏 各委員

欠席の原田敏明氏へは、後日委嘱状送付

3. 大塩会長挨拶

4. 委員自己紹介

5. 協議事項

(1)副会長の選出について

川西市青少年問題協議会規則第2条第3項にもとづき副会長の選出を提案。

(会長)委員の互選になりますが。(委員からは特になし。)事務局からの提案はありますか。

(事務局)青少年の健全育成において教育委員会との連携を考え益満教育長にお願いしたいと思いますが、いかがですか。

拍手を以て承認。

(2)平成20年度川西市青少年健全育成要綱(案)について(吉田課長)

21世紀を担う青少年の育成に関して、平成15年に国で策定された「青少年育成施策大綱」に基づき、現在、施策を展開中であります。と同時に兵庫県においても「未来を担う子どもたちを健やかに育てるための9つの提案」が策定され、これらを受けて川西市では青少年の健全育成推進項目として○あいさつ・声かけ運動を推進しよう、○青少年の体験活動の機会を広げたり、居場所づくりを進めよう、○家庭、学校、地域団体、行政が連携をとり、青少年を見守ろう、○家庭教育を見直そう、の以上4点を共通重点目標として設けています。いずれも各団体、地域で取り組みを進めてもらっているところですが、今年度も、各団体において連携を図りながら推進いただくことを要綱にまとめ提案とします。

意見、質疑応答

(会長)今の提案につきまして、意見質問はありますか。

(委員)推進項目第5に学校教育の充実とあるが、これはどこの場で反映されていくのか。オープンスクールや教育相談機能の充実等が書かれているが、どこで話し合いがもたれ、こういった形で反映されるのか。

ここは決定機関ではないが、この中で提案された事項について、行政側にこうすればどうかといった、議論、意見交換はできるのか。

(事務局) もちろん、意見交換の場であるのでいろいろな意見を出していただきたい。

(委員) 協議会に出ている代表は自分たちの場所で反映させる場がない。今やっているのはどういう場なのか。行政に自分たちの考えを提案できる場なのか。

(事務局) 各種団体から集まっていたので、それぞれの意見を出して行っていただきたい。

(委員) オープンスクールや小・中・高の連携を強化するとあるが、それらを具体的にどう捉え、どういった方向にもっていくのかをききたい。

(事務局) 20年度川西の教育推進の方向がある。そのなかで地域に信頼される学校づくりという推進目標がある。そこにオープンスクールなどが入り、推進目標の達成に向けて取り組んでいる。他の項目についても、各団体の取組み推進の方向性としている。

(会長) 各団体から代表として出てきていただいている。そこで、ここに出てきた意見を踏まえて各団体でどう対処していけるかも重要な事と考えている。それぞれの組織の中でどういうことが対応できるのか、今、自分たちの組織で取り組んでいる事や、そこから出てくる問題点はこういったことなのかを議論していただき、より広い連携をしていただければと思う。今年度はこの要綱に沿って各団体での取組みをお願いします。

(3)「青少年の表彰」について(吉田課長)

表彰要綱に沿って説明。今年度も要綱に沿って選出し、フォーラムで表彰する。また、今年度についても青少年の選考委員会で最終選考を行う。

・日時 平成21年1月31日(土) 13:30~16:00

・場所 川西市文化会館大ホール

・案内配付日 平成20年 8月1日

・推薦書提出締切 平成20年10月1日

質疑・応答

(会長) ご質問・ご意見はありますか。

(委員) 毎年、ボーイスカウト、ガールスカウトの若いリーダーが表彰の推薦対象としてあがってくる。いずれも団体として推薦するにあたり、各隊の指導者としてがんばっているか、その行動が隊を通して地域社会に貢献できているかを基準としている。しかし、若いリーダーは学生であることが多く学校やアルバイトにも行かなくてはいけない。そのため時間的、金銭的制約もあり隊の会員を育てるという1つ目の条件は満たせても、2つ目の地域社

会への貢献というのがなかなか難しい。とはいえ、こういった活動は若いリーダーが核となっていていなければ発展できない。そこで、若い世代が自分達の次の世代を育てていくということも地域社会への貢献であると解釈を少し広げていただければと思う。また、ガールスカウトは3団体それぞれが推薦者をあげている。そのため人数や地域に偏りが出てきてしまうので、先に3団体で協議してもらいまとめたうえで1、2名の推薦にしてもらってはどうか。

提出後、選考委員会で具体的な話がでてくるなかで再度協議、検討していきたいと思う。

文面についてだが、どのような活動を通して地域にどのような貢献ができたのかをもっと具体的に、わかりやすく書いていければよりよいと思う。具体的であれば、次に続くリーダーが目標を持ちやすくなるのではないだろうか。引き続き協議、検討していきたいと思う。

(委員) 推薦対象としてスポーツのコーチなどは対象となるのか。

(委員) 対象となっていた時期もあるが、今はより明確であろうという理由から体育振興の方から表彰している。

(委員) 推薦する方としては迷うので明確に分けてもらいたい。

(事務局) 要望については早急に対応をしていきたい。

(4)平成21年川西市青少年育成フォーラムについて

資料に沿って説明(吉田課長)

趣旨説明、実施に当たっての配慮事項、内容の説明。昨年度はPTCA青少年フォーラムとして、青少年問題協議会とPTA連合会の共催で行った。それにより参加者にとって参加しやすく、満員の会場で表彰や舞台発表などの出演者を迎えられるなど成果があり、その他にも継続した上で効果を図るという観点からも、今年度も共催という形にしたい。

・日時 平成21年1月31日(土) 13:00~予定

・場所 川西市文化会館 大ホール

実行委員は青少年問題協議会から3名、地域の青少年から5名程度選出予定。表彰の選考はフォーラム実行委員が兼任。

青少年問題協議会より実行委員選出(事務局より提案)

渋野敏彦、佐伯直樹、稲垣明 各委員。3名とも承諾。

質疑・応答

(委員) 別々の開催のときはPTAの青少年育成フォーラムへの参加もおぼつかなかった。青少年への取り組みに対して、一緒に取り組んでいけるのでこの共催はPTAでも好評だった。

(会長) 今年もこの形でもよろしく申し上げます。

5. 意見交換

○青少年の自立支援と地域・家庭の役割

(事務局説明) 青少年の自立への意欲を高めるため、①家庭で青少年の自立への意欲の基盤を培う、②すべての青少年に体験活動を根付かせ、体験を通じた試行錯誤切磋琢磨を見守る、③社会との関係の中で自己実現を図れるように地域の大人が導く、④一人ひとりに寄り添いその成長を支援する、⑤情報メディアの急速な普及に伴う課題へ大人の責任として対応する、以上5つの提言をあげる。

(会長) 説明いただきましたが、関わらなくても結構ですので、日頃お考えのこと、団体での取組みのこと等ご意見をお願いします。

意見交換

(委員) まずは朝のあいさつからと考え、あいさつ運動を続けている。小学校に比べ中学校はあいさつが少ないように感じる。

(委員) 学校の防犯の観点から、放課後子どもプランについて積極的に進めていこうとしているが、同時に子どもの安全についてどの学校も頭を悩ませている。放課後が対象となるので、暗くなってくると下校が心配だという声が学校側だけでなく保護者からも聞かれる。対策としてガードマンを配置してはどうかという案もでたが、現実として厳しいものがある。やはり地域で守っていくしかない。各団体との協力がこれからの課題だと考えている。

(委員) 補導委員としては、繁華街をパトロールしているグループがあるが、最近、あまり子ども達をみかけなくなった。どうしたのかと思っていたのだが、自分達が見回っている7、8時ではなく、もっと深夜にたむろしているようだ。深夜となると補導委員だけでは手が回らない。これから夏祭りなどイベントもある、しっかりと連携をとらせてもらい、子ども達の安全を見守っていききたい。

(委員) 学校の評議員をしているのだが、学校に行って給食を食べたときでもおいしかった。ご飯を食べているとき、人の心は穏やかになると思う。なんだかキリキリしている現代において、こういった心に余裕のある社会が求められているのではないだろうか。

(委員) 補導委員もまずは子ども達と顔見知りになることから始める。たばこを吸っているところを見つけたからといっていきなり捕まえて注意というのは難しい。何にしても、人を注意するというのは難しいことだ。だからこそ、子ども達が小さいときから地域のおじさん、おばさんとして関わっていくことが大切だと思う。初めのうちに対応できればよくなっていくこともたくさんある。しかし、それを見逃してしまうとどんどんエスカレートし、

最後は警察のお世話になってしまうような事態になってしまうことも。そうならないためにも、自分達の活動があると思っている。いつも黄色い服を着て見回っているのだが、徐々に地域の方達にも理解が広がってきているのがうれしい。

（委員）でも、黄色い服を見ると逃げる子どももいると聞いたことがある。そうではなく、自分達の事を考えてくれているおじちゃん、おばちゃん達だと思ってくれるようになればいいのに。これからの課題だ。

（委員）反省点というわけではないが、繁華街パトロールをするときに5人10人くらいでぞろぞろ歩くのは、少し目立つ気がする。目立つのがいいのか、少人数がいいのか。

（委員）コミュニケーションをとりながら歩いている。しかめっ面ではこちらからも声をかけにくい。たむろしている子ども達に声をかけるが、かけやすい雰囲気づくりも大切にしている。また、防止効果があると信じてできるだけ人目につくように歩いている。また、10人集まったときには2つのグループに分かれてまわるようにしている。能勢口駅周辺だけではなく、時には市内の繁華街と思われるところに青色回転灯装備車で出向いている。

（委員）現在、補導委員と繁華街特別担当とをわけているが、連携という観点からも分ける必要性があるのだろうか。交流をしっかりと図る必要がある。

（事務局）夜の繁華街特別グループができたのは、当時、能勢口周辺の子どもの様子が難しいところがあった。そこで特別に繁華街グループをつくったという経緯がある。忙しいなかでもきっちり定例会もしてもらっている。パトロールの時も威圧的ではなく和やかに子ども達に声をかけている。注意ではなく声かけによってコミュニケーションを形成することを一番の目的に活動してもらい、とても効果的な活動であり大変感謝している。パトロールには、事務局も同行しているが、人数の多いときには2つに分かれてまわっている。他にまわっている別の組織と間違えられているのではないか。

（委員）補導委員として活動しているが、女性のグループでは昼間の活動はできるが、夜となるとなかなか難しい。そのため、夜を担当してくれる特別グループがいてくれることは意味のあること。別組織ではあるが単独ではないし、もちろん交流もしているので問題はないと思う。

（委員）もともとは、定期的に能勢口駅周辺を回るようにしようというのができた大きな理由の1つだった。各地域から出てきてもらえば理想だが、遠くから出てきてもらわなくてはならない人もいる。それならばと、事務局推薦で周辺だけを担当するグループをつくることになった。今は商業関係とも連携をとろうということで、商工会からも2名出してもらっている。

（委員）地区懇談会で、中学生の携帯電話が話題にあがった。学校への持込などの対応はどうなっているのか。

(委員) 市内7中学校とも、持込は原則禁止している。ただ、保護者の方からの要望で、部活後そのまま塾に行くので連絡手段として持たせたい等、帰る前に連絡がある方が安心だという声もある。そういった場合は学校でいったん預かり、下校時に返すようにしている。部活動で試合に行くときでも顧問が預かるようにしている。

(委員) 今の流れというか、保護者として連絡手段があると安心だということと、みんなが持っているからということで親も買わざるをえないのだろう。しかし、家に帰ってからずっと携帯電話でやりとりをしているとよく聞く。そのような話を聞くと小中学生にとって本当に必要なのだろうかと思う。学校側として、校長会などでなにか話が出ているのか。

(委員) 学校には必要のない物は持ってこないというのは、はっきりしている。しかし、安全の為に持たせたいという保護者の気持ちもわかる。今もGPS機能のついた携帯電話があるが、いずれ防犯具として携帯が普及してくるかもしれない。

(委員) 学校の対応として、文書化された統一見解はない。しかし、各学校でも話し合いはもたれているし、先ほども言ったように学校管理下では使わせないというのは同じ対応だ。また、安全面や便利さよりも影の面が大きいと考える職員は多い。私自身は持たすべきか保護者の方から相談されたときは、中学校では携帯電話を取り巻く危険の方が大きいので、まだ持たせる必要はないと言っている。

(委員) そもそも、親の許可がないと携帯は買えない。しかし、買い与えた親が使い方を学校に仰いでいるのはおかしい話だ。親の教育力が低下しているように感じる。裏サイトなど子ども達は知っているのにおとなは「らしい」としか知らない情報がたくさんある。学校から発信する情報としても同じ。それでは不安をあおるばかりになってしまう。なんとかならないものか。

(会長) まだまだいろいろとご意見をいただきたいところなのですが、時間がまいりました。これをもちまして、意見交換は終了させていただきます。

6. その他(事務局より)

- ・「青少年の表彰」について 推薦書の×切は10月1日(水)
- ・第2回目の青少年問題協議会は12月に予定
内容(案)は ①「青少年の表彰」の被表彰者の決定
②PTCA青少年フォーラムについて
③青少年の自立支援についての意見交換

7. 閉会挨拶(会長)